

3月5日登壇

- 堀江 泰幹 議員
 - ・市長のまちづくりについて
- 佐々木 彰 議員
 - ・中山間地の振興策について
 - ・合併特例債の使い方について
- 高橋 一由 議員
 - ・古タイヤ処分と農家支援について
 - ・中学生まで医療費無料化の早期実現について
 - ・保原小建設時の地元発注と地元購入について
- 大塚 一郎 議員
 - ・介護保険と高齢者のための福祉施策について
 - ・「国民読書年」の取り組みについて
 - ・仁志田市政2期目の新ローカルマニフェストについて
- 八巻 善一 議員
 - ・梁川町白根地区市道山沢線及び白雲線の改修、拡幅整備について
 - ・集会所建設等事業費補助金交付について
 - ・伊達市小学校統廃合と梁川小学校建設について
 - ・地域づくり支援事業と市民協働についての旧5町の統一と区分けについて
- 中村 正明 議員
 - ・国民読書年の取り組みについて
 - ・市長が理想とする行政サービスについて

3月8日登壇

- 佐藤 実 議員
 - ・伊達市の人口増加、定住化対策について
 - ・スポーツ振興を通じた地域づくりについて
- 半澤 隆 議員
 - ・市民の皆さんが、伊達市に住んでいて良かった、これからも住みつづけたいと思う政策の実現について
 - ・今年度、市内在住の新規高卒者の就職状況について
 - ・エコキャップ運動の推進について
- 菅野 富夫 議員
 - ・伊達市長2期目に向けた仁志田昇司のローカルマニフェストについて
 - ・「3歳未満の保育待機児童をゼロにする」について
 - ・「新規就農や営農組織への育成支援により農業活性化を図る」について
- 佐々木英章 議員
 - ・自治体の役割を發揮した人づくり、地域づくりについて
 - ・福祉、教育で先進的役割を進める市政について
 - ・農業と第2次産業を励まし育成する市政について



Q & A 一般質問

中山間地では、限界集落ということばが示すように、人口の定住化に困難をきたしています。市長の



中山間地の振興策について



佐々木 彰 議員

中山間地の振興策には取り組んでまいりましたが、効果のある手が打て



マニフェストには「平成22年度まで集落支援専門員（仮称）を総合支所に配置し、人口減少下における中山間地社会の将来像を探索するためモデル地域を選定、ケーススタディを実施します」とありますが、具体的な地域を選定、支援員の選定などどのように行っているのか伺います。

ないままとなっております。集落支援専門員を総合支所に配置し中山間地の将来像を探索することを目的としています。モデル地域については霊山、月館、梁川の3地区から特定の地域を選んでいくことを検討しており、専門員については公募等により専門的な知識、技能を有する方、あるいはその土地の方も視野に入れ、中山間地の問題の打開を図っていきたく考えております。

市長は、1期目の基礎づくりから2期目は発展期へとつなげると思っています。「健康都市」伊達市の方向性を確認したいと思っています。①5つの約束35の実行についての財政的裏付けとなる



市長のまちづくりについて



堀江 泰幹 議員

マニフェストをよく見ていただければ分か



歳入の見通しについて伺います。中でも学校建設、認定保育園、老人ホーム、市民ホールなどハード面について。②農業を始めとした地域産業育成振興について、この4年間基幹産業である農業の位置づけが弱かったと私は思います。今後の位置づけについて伺います。さらに経済対策としての小規模事業者の支援対策としての「住宅リフォーム」助成制度の創設を求めたいと思っています。

りますが、箱物と言われるもので行政がつくるものは多くはありません。民間活力の中でやっていただくもの、市がいろいろな形で支援をしていくということはあると思います。農政は国・県・市町村が一体となって取り組むことだと思っており、そういう中で農業政策を我々としても精いっぱい取り組むこと、それが基本的な認識であります。県の制度で耐震対策がありますので新たなリフォーム制度を設けなくとも、対応できるのではないかと考えております。



高橋 一由 議員

本数はつかんだ、農家の古タイヤ早く医療費無料を、中学生にも

Q 果樹農家が防霜用に購入した古タイヤが、燃やせず未処分のまま、営農

の障害となつていていることから、処分の早期支援を求めてきました。また、現況を伺います。また、求め続けた小学生の医療費については、4月1日から無料化が実現し、子供たちの権利も増え、評価いたします。更に、「健康都市」づくりをうたう市長には、何とか予算の都合をつけ、中学生にも医療費無料化の早期実現を進めるべきと考えますが、率直な見解を伺います。

A 農家の古タイヤにつきましては、12月議会

でも質問をいたしましたが、その後、農協の協力の下、農事組合を通じて実態調査を行いました。今後は処分の仕方について、方向性を見出していきたいと考えております。中学生までの医療費無料化につきましては、マニフェストに掲げたこと、また、子育て支援の観点からも義務教育という1つの区切りとして、実現を期することは当然と考えており、今後努力してまいります。



大條 一郎 議員

介護保険と高齢者のための福祉施策について

Q 今後は、元気な高齢者が支え手になる取り組みが必要と考えますが、本市における介護支援ボランティア制度の導入についてお尋ね

いたします。

A 全国の事例等を参考にしながら、実施に向けて検討してまいります。

Q 伊達市独自の健康体操への取り組みを伺います。

A 今後の課題と認識しております。

Q 介護難民という言葉が生まれるほど、家族の介護をするために離職せざるを得なかった家族などがおられます。そうした介護家族へのきめ細かい相談業務の実施についてどのように考えているか、お尋ねいたします。

A 高齢者や介護家族の相談体制としては、伊達地域、梁川地域、保原地域及び霊山・月館地域にそれぞれ地域包括支援センターを設置して、介護予防、ケアマネジメントや高齢者の総合相談、権利擁護等の業務を行っておりますので、積極的にご活用いただきたいと考えております。



八巻 善一 議員

伊達市小学校統廃合と梁川小学校建設について

Q 統廃合の基本的考え方について伺います。

A 学校教育は保護者や地域の方々の協力があつて成果がでるものであり、学校行事に地域も協力し、また地域行事にその地区の子供たちがかわつて盛り上げ、地域活動の中心的な面もあります。子供たちの健やかな成長と共にその当該校にかかわる保護者、地域の考えを大切に

進めるべきであると考えております。

Q 保護者と地域の皆さんの考えが一致すれば、統合できるのですか。

A 学校廃止は地域に与える影響は大きい。地域の中で合意形成を図り必要ならば進める。小学校がな

Q 梁川小学校建設について平成28年には4百名規模となるとのことですが、あと6年間で統合された場合、対応できますか。

A 梁川小学校を除いた幾つかの小学校を足しても学級増に至らないので、統合があっても大丈夫であります。

議会を傍聴しましょう

6月定例会は6月15日予定です。

「議会基本条例」の制定に伴い、本会議のほか委員会の議事も公開となり、傍聴ができるようになりました。



中村 正明 議員

国民読書年をどう活かすか

国民読書年の今年、伊達市はどのような事業を推進していくのか。

小中学生に対しては、読書環境を整えると共に、図書館がにぎわいを見せ、市民だれもが本を携えて歩く

ような伊達市を目指していきます。大人向けの読書啓発の取り組みとして図書館の図書購入費を増額しています。



▲市立図書館

伊達市の図書館に司書は配置しているか。

現在は配置していませんが、平成22年度は臨時職員の司書を配置したいと考えています。

行政サービスのありべき姿について

市長が理想とする行政サービスについて伺います。

思いやりの気持ちをもち、その人の立場に立つて考えていくことが基本であり、その人の痛みが分かる

る職員であって欲しい。

私の提案であります。「伊達市職員は、全てのお客様、市民の皆様、の立場に立ち、日本一親切丁寧な市役所を目指しています」と



半澤 隆 議員

伊達市に住んでいて良かった

これからも住み続けたいと思う政策の実現

市民の皆さんが、伊達市に住んでいて良かった、これからも住み続けたいと思う政策の実現について次の2点について伺います。①全国784市ある中で、住みよきランキングの向上策は、

②中山間地域の農家の方が困っているイノシシの被害対策について、予算を増額すべきではないか。

合併後、住みよさの中の1つ、安全なまち

いうような標語を各所に掲示してはどうか。

ご提案の趣旨は私も理解するところなので、努力してまいります。

では、火災、交通事故、刑法犯の件数は少なくなっています。今後、関係機関と協力して減少に努め、安全・安心な住みよい伊達市にしていきたいと考えております。

平成22年度事業でイノシシの被害対策の講習会を開催することやイノシシを寄せないための電気柵、追い払い用照明器の設置に対する助成を予定しております。また、駆除隊に対して、活動費用の増額を行います。

今年度、市内在住の新規高卒者の就職状況と就職未定者に対する対応について伺います。

2月末現在、14名が未内定者となっており、今後、県と市の雇用事業で、新卒高校生を中心に14名の臨時職員を採用する予定です。



佐藤 実 議員

人口増加、定住化対策を問う

合併時7万人弱だった人口が減少の一途をたどり、平成27年には6万5千人を割り込む推計値も現実味を持ってきています。人口

労働力の減少をはじめ消費者の減少による地域経済の縮小、税収の減収など多大な影響を及ぼします。一方で社会補償費、医療費、民生費が増大し財政が厳しさを増す中、硬直化が進み行政サービスの低下が懸念されます。そこで早急な人口流出の歯止め、定住化対策を積極的に進めなければと考えるが、いかがでしょうか。

世界に例を見ない急速な少子化、人口減少

が進行する中、一つには人口増になるための子供を生育しやすい環境づくり、また、流出に歯止めをかける施策として、いっぺんには定住とは行かないにしても、伊達市に来ていたたく交流人口を増やし、定住人口へとつなげていきたいと考えます。また、中山間地から転出していくケースも多いので、22の小学校区単位の地域懇談会も、もう少し、地域を絞って開催し、地域の考えを深めて、策を講じていきたいと考えております。



菅野 与志昭 議員

**仁志田昇司伊達市長の
2期目へ向けたローカル
マニフェストについて**

Q 安心して歳がとれ、子育てのできる「健幸都市」伊達市を目指して2期

目の市政にどのように取り組んでいくのでしょうか。

A 少子高齢が非常に大きなスピードで進んでいる状況にあり「健幸都市」伊達市を実現していく必要があります。5つの項目の約束をローカルマニフェストに掲げ基本的に取り組み、また「総合計画」に基づき行政サービスの充実を推進してまいります。

Q 「5つの約束・35の実行」をどのように実

行していくのでしょうか。

A 1期目4年間の経験に鑑み、市政に対する基本的な考え方、取り組みの姿勢というものをその任に当たる市職員に理解してもらい、そして市民の皆様方にも理解をしていただかなくてはなりません。少子高齢化対策、市民協働、地場産業の育成、財政的な基盤のために伊達市としての全体の体力をつけていくことを考えてまいります。



佐々木英章 議員

自治体の役割を発揮した人づくり

Q 今回は、①人づくり、地域づくり、②福祉・教育で先進的な役割、③第一次・第二次産業に関して質問をします。人がきちつと真ん中に座っている。真ん中に座っている人間がいろんな舞台、ステージできちつと過こすことができる市政のあり方と

思います。

A 「健幸都市」伊達市は、少子高齢化社会を維持可能な形でやっていける。それは合併特例期間が終わってもやっていける、そういう都市を目指しているという「健幸都市」を目指していくというのが、合併後の展望、伊達市のあり方というふう考えております。

Q そういうことをしっかりと展開できるような必要な支援措置を政策体系化していく責任は市にあるわけですか。

A 地域自治基本条例を制度的なそういう位置づけをきちつとしていくということ。これから取り組まなければならないことだと思います。



菅野 富夫 議員

保育所の増設で待機児童の解消を

Q 現在の3歳未満の児童と3歳以上の児童数と、各保育所の定員オーバーのパーセントはいくらか。市長が公約している待機児童の解消をどう進めるのか伺います。

A 2月12日現在、ゼロ歳から2歳児315人、3・4・5歳児が390人です。伊達保育園116%、梁川中央保育園100%、三育保育園118%、保原保育園105%、第2保育園116%等です。待機児童の解消は、幼稚園と保育園を一体的に取り組みます。

Q 幼稚園の3年保育と認定こども園をいつまで行おうとしているのですか。認定こども園ではなく、保育所の増設をすべきです。検討されたのか伺います。

A 平成23年度では伏黒上保原、伊達で幼稚園の3年保育を進めます。認定こども園は平成25年度に上保原につくりたい。だれでも入れる認定こども園を取り入れます。

Q それは民営化なので、柱は上保原に統合されるのですか。その場合、富成

A 民間活力で進めたいと思います。統合はこれからの問題です。



▲認定こども園大田

伊達市議会の
ホームページを
開設しています